学友関係の実態調査

——特に6カ年の継続調査において——

深　野　　明

1　はじめに

「新しい友だちは，小学校の時期からあろうが，それは家が近いとか，親が互いに親しい，などということで友だちになっていることが多い。中学校になると，興味が同じ人とか，互いに理解しあえる友だちを求めるようになる」また「青年期になると，多くの場合偶然がきっかけとなって，われわれは特別に親しい友人をもつようになる。この友人関係は……略……だれもが平等であって対等の対人関係がつくられ，ここでわれわれは（自由と平等）とを体験する。このようにして，われわれは将来の社会生活に必要な対人関係に対する態度の両面（一面は権威と従属）を学びとることができるのである」。これは中学生と高校生が使用しているある「保健体育」の教科書にでていたものである。学校において，友人関係が形成される割合はかれらの生活時間の大部分が学校生活を基盤においていることからも予測できることである。教育活動の意図的改善が生徒に社会人として，また人間的な意味から円滑な精神活動が発揮できるようにすることは重要なことである。それには発展の方向に教育目的が，その発展の道程には教育技術が関連されて，よりよい友人関係の発展があるといわれる[1]。現状においては「自発性に基づく超自我」[2]の集団であり，そのうちの「場」だけ有機的に与えているようにおもえる。そこでより望ましい交友関係を意図的に育てるために，中学生活と高校生活の6カ年を継続的に実態調査を行ない今後の改善の資料にしたい。

（1）　松村康平・板垣葉子両著「適応と変革」誠信書房　1960

（2）　小川太郎・山根清道訳　スラヴソン「集団心理療法入門」誠信書房　1956

2　調査の方法

質問紙による調査（第1回～第6回）

3　調査項目

1　C・E・Rに関して

2　6カ年の選択数の推移に関して

3　友人数に関して

4　Rの内容に関して

5　親しくなった理由に関して

6　友だちとの話題に関して

7　性格に関して

8　特性に関して

9　将来への期待に関して

4 被験者と調査期日

本校昭和32年度　中学入学者　男子86名（注，中２・中３　85名　高１・高２　84名　高３　85名）昭和32年より６年間，３学期に実施。

5 集計基準

調査項目別

6 結果と考察

その1　C・E・R に関して。

個人が何人友だちを選んでいるかを選択数(C)。C の合計を成員数で割ったものを集団の拡張指数(E)。相互に友だちとして選んでいる数を相互選択数(R)とすると，６年間のC・E・Rは次表１のような結果を得た。

＜表１＞　６カ年の C.E.R

	中１	中２	中３	高１	高２	高３	計	平　均
C	139	235	218	187	164	163	1106	184.5
E	1.6	2.7	2.6	2.3	2.1	1.9	13.2	2.2
R	38	61	73	52	48	43	315	52.6

考察　表１について。

1　C の最高は中学２年である。

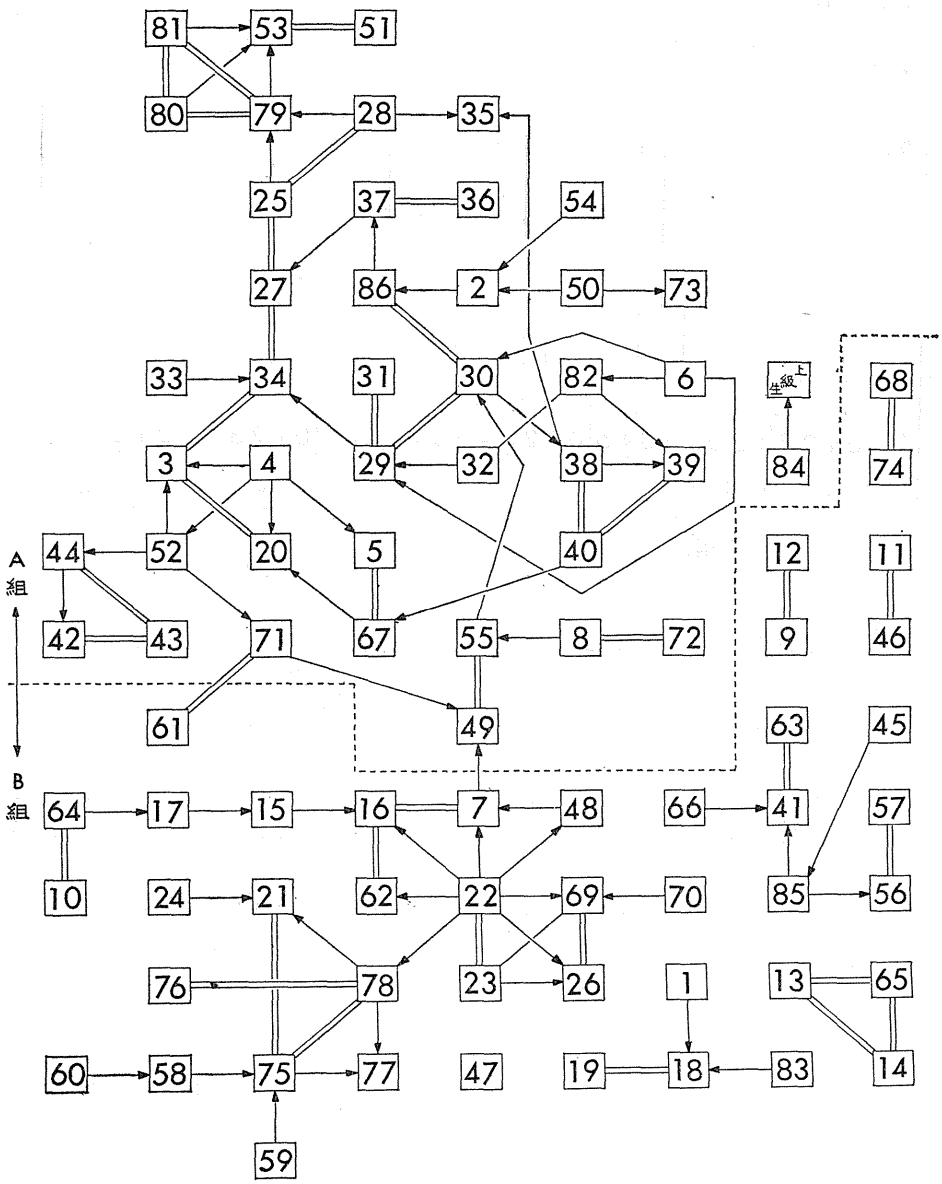
2　E の最高も中学２年である。

3　R の最高は中学３年である。

4　中学１年の C・E・R については次の表２からさらに考察すると，A 組の方が B 組より C・E・R 全てについて数値が高い。このことが教科担任の報告で「A 組の方が，授業時の学習態度が悪い」とか「うるさい」といわれた原因であると思われる。B 組に１人で友だち８人を選択しているが，図１の22番を参照すれば明らかにそのうちの

＜表２＞　中学１年の C.E.R　　C・E・R$\left(\frac{N}{\%}\right)$

組＼数		0	1	2	3	4	……	8	C	E	R
A	42	2/4.8	16/38.2	12/28.5	12/28.5				76	1.8	20
B	44	2/4.5	31/70.5	7/15.9	2/4.5	1/2.3		1/2.3	63	1.4	17
学年	86	4/4.6	47/54.5	19/22.0	14/16.5	1/1.2		1/1.2	139	1.6	38

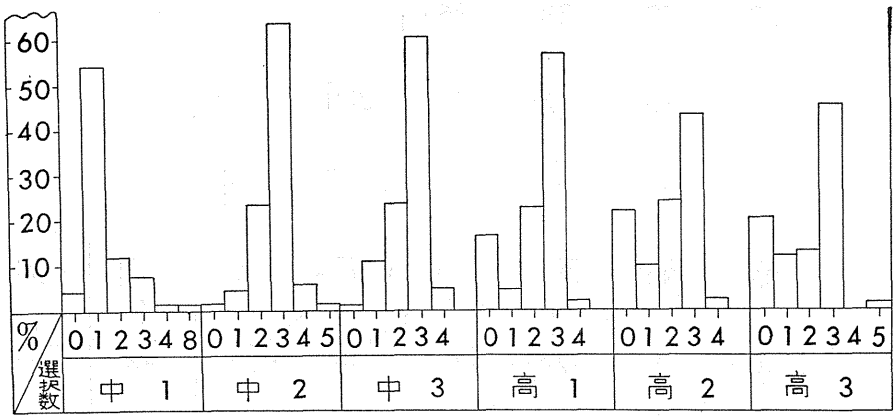


<図 1> 中学1年の Sociogram

23番と相互選択があるだけである。表２のＲの合計と各組を加えたものとが１つ誤差がある。これは小学校からの友だちでＡ組とＢ組とに分れているために各組単位に集計したため入らなかったものである。（図１参照のこと）

その２　６カ年の選択数の推移に関して。

表１のＣの推移を各学年ごとに選択数別にし，百分比に換算したものが図２である。のような結果で現われた。



＜図２＞　６カ年の撰択数の推移

＜考察＞　図２について

1　中学１年を除き，他の学年はいずれも３名の友を選んでいる。しかし，このことは質問紙に３名だけしか記入欄をつくらなかったので，４名，５名を選んだものは欄外に記入された。すなわち記入欄が少なかったために３名に集中したと考えてよいと思う。なぜなら，友人の親密度を作文形式で提出を求めたときに「３名と限定するのはつらい……」というような批判文を書いていたものがいるからである。この作文形式の質問紙は高校３年のときに行なったのであるが，図２の推移をみると必ずしもそのためとばかり限定されてない。

2　高学年に推移するにしたがって友だちを記入しない生徒が多くなっている。これは次の表からも孤独感の増加がみられるように高学年になるほど友だちの数を少なくしてくるのではないか。

＜表３＞　孤独感をもつ男女生徒の割合

学年	中 1	中 2	中 3	中 4	中5（高1）	高 2
男	15.1	18.4	23.8	45.9	47.6	67.1
女	19.6	34.1	38.2	36.4	63.9	61.3

※　旧制中学，高校について，依田氏の報告による

その３　友人数に関して

6カ年の間に何名の友だちを選んでいるかをまとめた結果が表4である。

＜表4＞　6カ年の友人数の分布

段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
数		1	3	4	12	16	19	14	7	6			1		1	84
%		1.2	3.6	4.8	14.4	19.0	22.6	16.6	8.3	7.1			1.2		1.2	100.0

考察　表4について

1　上記の度数分布から平均をだしてみると6.9である。このことから6年間に友だちとして選んだ数は約7名で，このことは小集団の定義の条件と小集団の人数において一致する[1]

2　13名については中学1年のときに8名を選んだ生徒であるが，その後は年に2名だけしか選んでいない。そして18名ののべ友人数のうちのべ6名の生徒とRが成立している。同様に15名友だちを選んだ生徒はのべ友人数17でそのうちRが6である。この生徒は毎回新しい友だちを記入しているので連続してR関係にあるのは中2・中3の2年間だけである。この2例と段階2の1名とは大部おもむきが異なっている。すなわち6カ年にのべ9名の友だちを選びそのうちRは7であり非常に高いR関係があり2名のうちの1名は6カ年連続R関係である。

そのため6カ年ののべ人員とのべRとの割合をしらべて10対5.58の結果を出してみた。すなわち10人友だちを選んだ場合約6人の友だちとR関係にあるわけである。

その4　相互選択(R)の内容に関して。

相互選択の年次別推移は表1のごとくであるが，この表だけでは前記その3，考察2の2年連続してるRや6年連続してR関係にあるのがわからない。そこで表5はRの内容を年次別に考察するために示してみた。この表の見方であるが，1例を上て説明すると，中学1年のときのRは38である。これを級担任が意図的に2年になるときにRを分けたところ，2年目の3学期の調査では16組になってしまった。このことは22組が崩壊したことを示しているのである。そして新しく45組のRができたわけである。この場合の16組は2年連続交友関係にあることがわかるのである。

1.　中学1年のR38のうち6年間友だち関係にあるのは3組である。しかもこの3組は6カ年の間に何回となく組が分れているが，趣味，クラブ所属の共通から6カ年続いたものである。

2.　高校1年でR関係にある27組は他の学年で新しくできたRより分解する割合が少い。第4回の調査で新しくできたのを表でみれば27組，第5回で12組，第6回で9組がR関係になっている。

3.　高校2年（第5回の調査）と高校3年（第6回の調査）で新しくR関係ができたものは他の4回以下のものより急激に低下している。このことは図2の0の選択数の割合になおしたところを参照されればわかる。すなわち新しくできた友だちを記入しても他方が白紙という場合が多いのである。

＜表５＞　相互撰択（R）の内容

６年間連続しているR		3															
５年間	連続しているR	1	2	3													
	連続してないR	2															
４年間	連続しているR	2	5	4	7	5											
	連続してないR	3		3													
３年間	連続しているR	9	14	3	9	7	11	10									
	連続してないR	5		6		4											
２年間	連続しているR	5	10	12	16	8	9	21	25	16							
	連続してないR	5		4		1		4									
各年度で新しくできたR		9		13		27		38		45		38					
		高３		高２		高１		中３		中２		中１					

※各年度のRの合計は表２参照のこと

4.　新しくRができたもののなかで多いのは中学２年のときであるが，３年間連続しているのを中学１年から高校１年の間でみると，高校１年と中学１年のときが連続選択の消失が少い。これは中学生活，高校生活の区切りを自然に自覚しているともいえるだろう。それをうらずけるものとして中学３年のときに新しくR関係ができたもの38組が高校１年で継続しているものがわずか８組になっているのである。

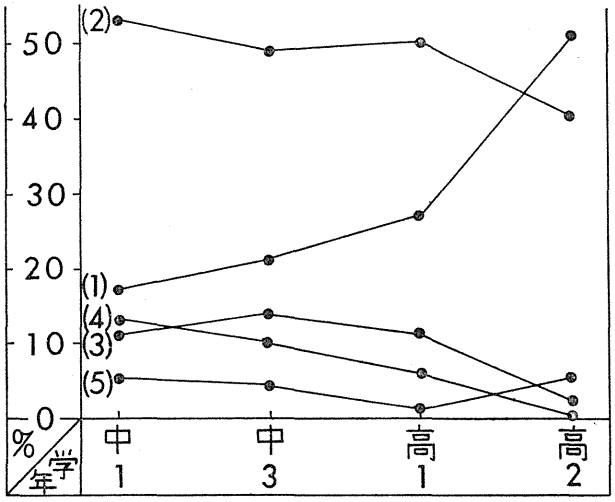
その５　親しくなった理由に関して。

友だちになった理由を中学１年・中学３年・高校１年・高校２年の４回調査した。理由の分類にはいろいろな方法があるが，ここでは桂広介氏の分類項目の一部を使用した。

（１）　興味・能力の近似
（２）　地理的近似
（３）　性格の近似
（４）　性格の相補的差異
（５）　その他

上記の分類方法のうちその他は特に学校行事関係をこの中に入れてみた。それは行事を通して交友関係の成立する割合をしらべることにしたからである。この分類の方法でまとめた結果を図３にしてみた。これは各項目の選択数に対する１項目の100分率である。

1.　興味能力の近似だけが高学年に行くにしたがって上昇している。このことは課外活動やレクレーション・映画などに非常な関心を示したことで，高校２年が実際のクラ



＜図 3＞　親しくなった理由

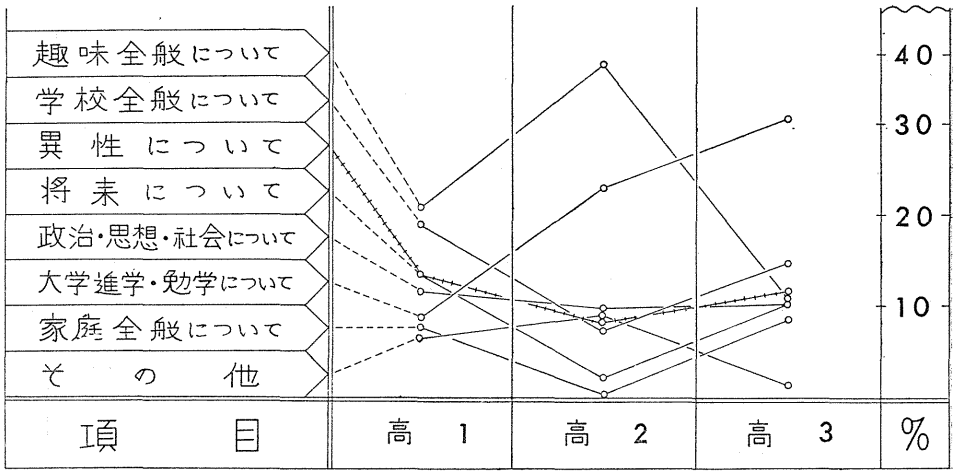
ブ活動の指導的立場にあるためと，知的活動の活潑な時期にあるためとおもわれる。

2.　青年期に入ると「地理的近似」による結びつきは減少し，精神的な面の結合が上昇するといわれているが，本調査の結果では「地理的近似」に多少その傾向がみられ，精神活動として興味をみた場合は上昇されていると予測できるが，「性格の近似」にはその傾向が現われなかった。

3.　学校行事がどの程度生徒の友だち関係に影響あるかを調べるために「その他」にそれを入れてみたが結果は5パーセントほどの触れ合いしかみせなかった。

その6　友だちとの話題に関して

友だちになった理由は精神的活動と地理的近似に大半が集中したが，友だち間の話し合の内容つまり話題はどのようなものであるかを調査し，いくつかの項目にまとめ，それに対する1項目の100分率を出したのが図4である。



＜図 4＞　話し合いの内容の百分率

考察　図4について

1.　大学進学・勉強については高学年になるにしたがって上昇している。このことは高学年ほど身近に大学受験が感じられるからで当然の結果といえる。

2.　趣味全般については，高校1年のときには1位で内容もスキー，つり，山，写真，ラジオの組立てなどが記入されている。高校1年になると芸術面の音楽，映画や，文

学面への話し合も豊富になっている。高校3年になると40パーセント台から10パーセント台に急激に低下している。これは考察1の大学受験などの面への交代があると思われる。

3. 学校全般については，高校生活のこと，教師批判，生徒会があげられている。高校1年のときは良い意味のクラブの話し（クラブ改善）合いなどであるが，高校2年の三学期の調査では芸術面の話し合が上昇してるのに反して学校での活動や学校生活については低下している。高校3年で少し上昇をみせているのは批判的な話し合いが加わっているからで大学受験についての反動として批判が多くなったと思われる。

4. 男子校である本校において，異性に関する話し合いは大体年間変らず10パーセント台にある。これと政治・思想・社会についての話し合い同じ傾向にある。この2つについて奈良女子大教育大学部付高の研究 (3) と比較すると異性についてはほぼ同率の結果を高校1年で得ていますが，政治等の話し合いは本校の8パーセントに対して奈良大教育学部付高は2パーセント強である。これは本校が政治等についての関心が高校1年に限っては高いことを示している。

その7　性格調査に関して

相互選択におよぼす影響として「性格の近似」という項目があるが，ここではどのような性格類型のものが相互選択をするかを目的に調査を行った。調査の一方法として精研式パースナリテイ・インベントリイを使用した。この方法を用いた理由は検査にあたって同一条件が保てること，比較するのに数量で現わすことが出来ることである。しかし短所もあり，単一の方法で全性格を判断するのは危険性をともなうので，ここではこの調査の結果だけを記しておく。表6は精研の調査700名と本校の調査（中学3年のとき）84名とを比較したものである。この結果は大体類似していると思われる。（右側が本校。）

＜表6＞　精研と本校との比較

類	型	実	数	%	実	数	%
* S	S	45	55	7.9	5		5.9
	S＋小文字	10					
* Z	Z	56	72	10.3	5		5.9
	Z＋小文字	16					
* E	E	37	58	8.3	8		9.5
	E＋小文字	21					
* H	H	26	37	5.8	1		1.2
	H＋小文字	11					
* N	N	25	41	5.9	4		4.8
	N＋小文字	16					
SZ		5		0.7	1		1.2
* SE		15		2.1	1		1.2

* SH		10		1.4	1	1.2
* SN		11		1.6		
ZE		6		0.9		
* ZH		17		2.4	2	2.4
ZN		4		0.6		
EH		8		1.1	1	1.1
EN		6		0.9		
HN		7		1.0	1	1.2
M	M (大)	31	348	49.7		64.5
	M (小)	317			54	
		700		100.1	84	100.2

* は一応類型と考えるもの

Mは無型　M (大) は三つ以上の類型の複合したもの。
M (小) は凡て20%以下のもの。

類型の特性として一部記してみると次のとおりである。

S　非社交性・孤立性・利己的・繊細。

Z　社交性・世話好き・無節度・無口。

E　根気強い・几帳面・頑固・怒り易い。

H　我儘・好き嫌いがはげしい・移り気。

以上は友だち関係に関連あるものを一般にいわれる言葉で現わした一部である。

この分類で交友関係をみたのが図5である。この中でMzとあるのは無型の中でも比較的Z型で20パーセントタイルに近いものとして記入したもので，精研で出している評価方法には載っていないので，予め説明をしておく。

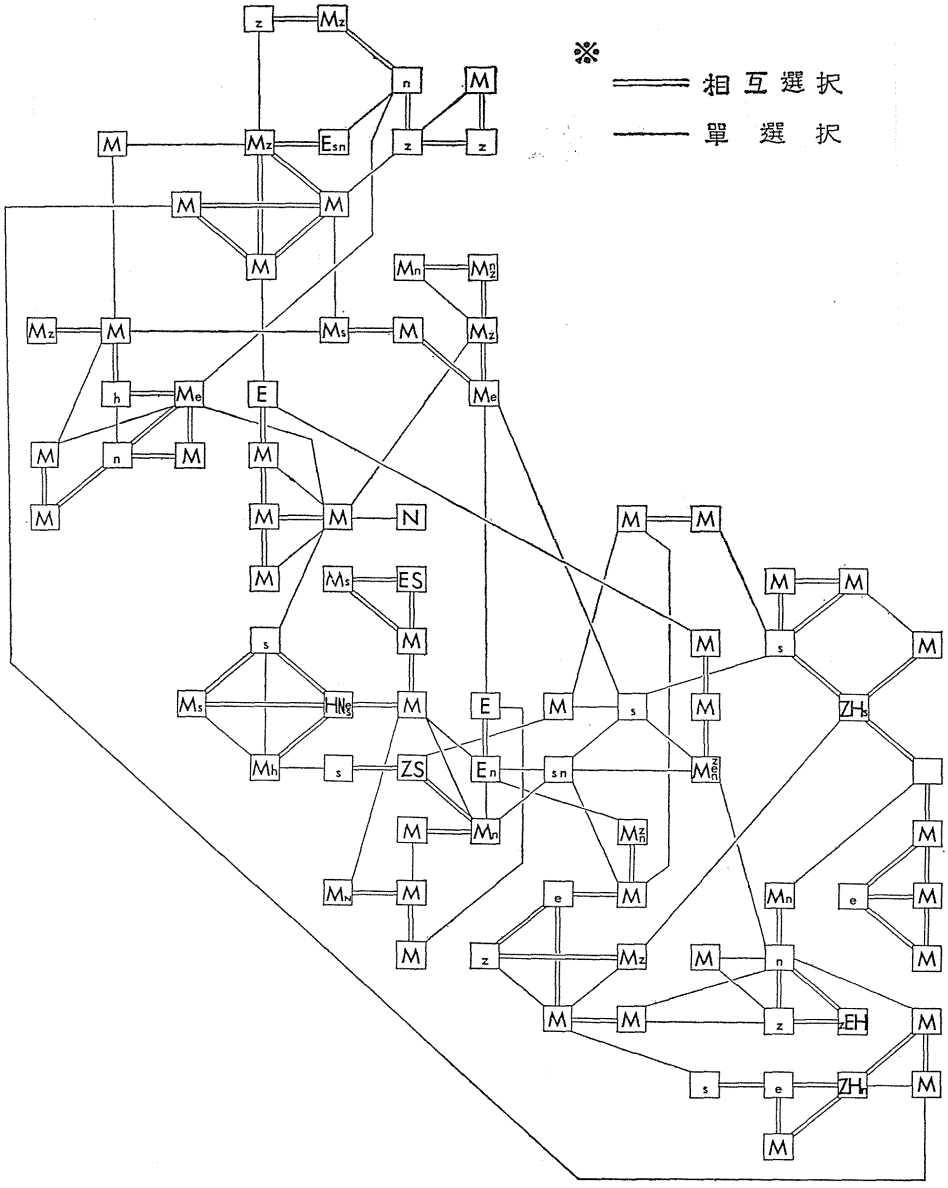
パーセンタイルとはその類型を顕著にもつ順に700名を並べた時Sの場合で云えば10点以上の点数をとっていれば，その特性を顕著にもつパーセンタイル中に入るという意味で10パーセンタイル以上を大文字のSで書き10より20パーセンタイルの間にあるものを小文字のsで書きこんである。図5の中の白ワクは調査を受けなかったものである。この調査を中学3年のときに行なったため，一応中学3年のときのSociogrmの中に記入してみた。図5をもとにしてRの分類をしてみると次のとおりである。

<表7>　精研式パースナリテイ・インベントリイによる相互選択の分類。

分類	無型同志	30R
	無型＋5類型	29R
	5類型同志	12R
	不明	2R
	計	73R

0

高校2年においては，友だちの長所・短所について，高校3年においては特性をしらべた。調査の方法として高校3年のときは記述させ，高校3年のときには設問中から摘出させてみた。その結果は表3のとおりである。なお記述のためまとめるのに困難性を生じ，かならずしも分類は適正とおもえない面があるのを予め断っておきたい。



<図5> INVw と Sociogram

＜表８＞　友だちの長所，短所

気分・心的感性	
長　　所	短　　所
1　まじめ	1　気分家
2　親切	2　怒り易い
3　人柄が良い	3　鈍感
4　意志堅固	4　気が小さい
5　積極性	5　呑気
6　温和	6　図々しい
6　呑気	6　神経質
8　大人しい	6　冷淡
9　楽天家	6　大人しい
10　信仰心	

社会的態度	
長　　所	短　　所
1　明朗性	1　我儘
2　実行性	1　非社交性
3　社交性	1　大言壮語
4　誠実さ	4　利己的
5　物静か	4　慎重的
6　責任感	6　批判的
7　分別	6　でしゃばり
7　ユーモア	6　倹約的
7　芸術はだ	6　無分別
9　利己的	6　一時的
10　批判的	6　独断
11　学究的	6　みえ

精神運動性

長　　所	短　　所
1　素直	1　不活潑
2　熱心	2　不減実
3　判断力	3　無口
4　集中力	
5　静か	
6　徹底	
6　器用	

精神的速度・緊張	
長　　所	短　　所
1　思考豊富	1　固執
2　活動的	2　きまぐれ
3　活潑	3　飛躍的
4　熱狂的	4　熱狂的

考察

1.　各項目の内容が多岐にわたっていることはより客観的に友の姿をみていることで，親密度を違った角度から眺められる。大多数のものが短所の項目は長所の半分である。

2.　長所と短長に同一内容がでているが，これは友だちの欠点としてみる場合と長所としてみる場合の両側的感覚があるためである。また明朗性と物静か，積極性と呑気というように行動とか気分に両端が同じ長所に記述してある。これは内向性と外向性でそれぞれ長所の選び方もちがってくるのである[4]。

高校３年のときには予め項目を設置しておいて選ばせた。その結果は表９のとおりである。

＜表９＞　友だちの特性

1	明朗	11	信頼感
2	正直	12	寛容
3	理解力	13	情緒安定
4	努力的	14	社交的
5	親切	15	幸福感
6	協調的	16	創造的
7	責任感	16	同情心
8	自立性	18	指導的
9	判断力	19	容姿
10	知的	20	成功的

1.　高校２年の長所の多い順によると。１明朗　２まじめ　３素直　４熱心　５社交性　６親切となる。これと高校３年との比較をすると社交性が高校３年の社交的とは本質的な違いはあるとしてもはなれすぎている。しかし高校３年の協調的なのと性質は似ているものがあるから同一に近いとみてよいか。あるいは高校３年の友人関係が少くなっている傾向（表１・表５参照）からかれら自身で社交性が少いと自覚しているか不明であるが，他の間には類似があると判断される。

その９　将来への期待に関して。

高校３年のときに，彼等が将来も今の友人関係が継続するかどうかを「20年後いまの友だち（個人又はグループ）との関係はどうなっているか」というような質問で作文を書いてもらった。その結果が表10である。

＜表10＞　将来への期待　$\left(\frac{N}{\%}\right)$

将来も友人であることを期待する	8	16 / 18.9
期待をして，友人の将来を予測する	4	
期待するが，将来のことはわからぬ	1	
期待するが，批判的なもの	3	
交友関係がうすれる		4 / 4.7
交友関係がなくなる		4 / 4.7
関係がなくなり，批判的なもの		
将来のことはわからぬ		4 / 4.7
将来のことはわからぬ，批判するもの		
将来の友人の職業や家庭を予測するもの	18	22 / 25.9
予測して，関係がうすれるもの	2	
予測して，関係がなくなるもの	1	
予測して，将来わからぬもの	1	
質問に批判的なもの		8 / 9.4
白紙		24 / 28.2

未提出	3 3.5
計	85

考察

1. 何等かの意味で期待するものが18.9パーセントというのは彼等が6カ年間の間に得た友だちに将来も期待しているとはいえないことになる。6カ年連続しているR3組について調べてみると，2組は白紙，1組は互いに友だちの将来を予測しているだけである。このことは学友関係の一つの解答としては悲観的であると考えてよいだろう。

2. 作文例について

1) 20年後といえば，40才にもうすこしという頃である。彼と自分とのつきあいは続いていることを願うが，何といっても受験する大学も全然違ったところであるし，彼が大学へは行かず就職するかもしれない（僕はできるだけ大学へ行くよう勧めるが）し将来のことは全く予測できない，しかし，少くとも手紙を通じては連絡を保ちたいと思っている。（原文）

この作文では期待するが将来のことは予測できない項目の一例である。せめての希望として手紙にて友人関係を保とおと願っている。これは小集団の一つの条件の欠除であり，形式的な友だちとなることを予測している。

2) 38才ですか，A君は大蔵省の局長クラスとなっているでしょうしB君は大学教授，C君は一流会社の技師として課長クラスになっているでしょう。僕は？

まあそれはそうでもいいことにして20年後もちょいちょい会って，いろいろ話しをしたいと思ってます。（原文）

これは予測をして期待する作文例であるが 1) の例より親密度は高い。そして6カ年の間に君に対して連続性のRを有していることと，この中の1名は将来も期待し，1名はうすれてくるとし，他の1名は関係がなくなると記している。

3) 学生生活（ことに高校以下）においては特殊な交友は存在し得ないと思う。もしあるとすれば大体においてセンチメンタリズムである。社会生活においては平等の付合いが必要であり，だれにも悪意を抱かぬことが必要であると思う。現在特に親友があるとしたら，それは環境によってなったものだと思う。20年後についても，同じ方面に進めば交友は続けられるが別方面に進めば自然と交友はと絶えると思う。ただし交友がとだえたからといってそれは働く場所それぞれで友人はできるものであり，一人の友人とあまり熱狂的な交友をすることは社会生活の正常な姿ではないと思う。（原文）

この作文は現在の友人とは関係がなくなるであろうというのと批判的な面を加えたものである。始めに平等，その後に地理的条件，そして淡白な関係が正常であると述べている。

4)　5人とも38才，妻と暮すこと10余年，幼稚園位の子供が一人か二人それぞれいることだろう。俺は平々凡々たる月給取り。Aは有名とまでは行かないが，中堅の弁護士，人権の擁護に東行西行している。ぼくはある土曜日の午後ふらっと彼の事務所を訪れ，20余年前の高校時代を思い返して，なつかしく語り合う。ああ若い時は良かった。

さて，5月の上旬会社の創立記念日が4日なので子供は母にあずけて妻と北海道へ旅に行く，札幌郊外の農業試験所ではBが厳寒の中の「B一号」稲の栽哉の研究をしている。早速その近くのBの家をたずねる。3日なので彼も都合よく在宅，B博士の奥さんは北海道の人らしく，色白でつつましやかな美人，我が妻と比して甲乙つけ難し，暖炉にあたり，夜遅くまで話しははずむ。学校のこと，東京・北海道，そして修学旅行や高校生活も。5日はBと二人で近くの国立公園までジープで行く（試験所のを借用）。昼頃彼の家を辞して帰京。6月中旬ある日曜の朝，小学二年の佳子が頭痛を訴えたので，早速Cに来てもらう。単なる寝冷えということでひと安心。Cは梅雨時の健康について注意を話してくれる。この後で我々5人集まらないかという話がでる。ぼくは賛成して次の日曜日Dの所へ行く。20年前よりは背も大部伸びエンジニアらしいひきしまった顔をしている。奥さんは少し小さいがなかなかの佳人。高校時代からつき合いと先頃聞いたが，高校時代にはこんな話は聞いたことがなかった。例の話しをすると彼は直に同意，土日の休み（週5日制となっている）なら七月・八月は予定がないとのこと。Aは例に依って忙しく七月の25.6か八月の4・5の外はだめらしい。ある夕方家に帰ると妻が「あなたEさんからよ」といって一通の封書を持って来た。七月六日の金曜日6時から自伝的小説「若き思い」の出版記念会をやるから来いとのこと，いってみると北海道のBの他は皆3人とも来ていた。各界の名士が集まってなかなかの盛況，会が終って4人で二次会を開く，その時例の集いが話題に上り8月の4.5 又は11・12の土日のいずれかと決まった。Aは何とかできるらしい。Bに問い合わせると 4・5 が良いという返事。場所は思い出の数々ある，野辺山ということになり，38才の体にムチ打って5人そろって新宿を出発，妻や子は皆我が家に残る事になっている。それぞれの妻子が手をふる中に垂直上昇機は飛び立ち1時間の半分位いで野辺山に着く20年前とはほとんど変化なし，自然への認識とここ10年来の人口減少の結果である。翌朝，白樺の林を抜けて我々5人は頂にと向う。年のせいか頂上についたのは3時頃，野辺山の最後の夜，我々の思い出話，そしてまたそれぞれの身上話しと夜の更けるのも知らずに続くのである。「幸多かれ我等が行く手に」！（原文）

この作文は将来も友だちを身近なものとして地理的条件のむずかしいところを処理している。現実的な面から友だちを述べている。そこには家族の模様を浮かせた素晴しい想像に満ちたものである。他の友だちの作文からの分類は1人は将来も友だちとして期待している。1人は友だちの将来を予測し今より程度がうすれてくるもの。1人は友だちの将来を予測。1人は予測し関係がなくなるものとなっている。

（1）　インフォーマルな友人集団はないし7名以下，青井和夫「集団・組織・リーダーシップ」第1章2小集団の定義より，培風館　1962小集団の条件として (1) 対面的 (2) 成員間の相互作用 (3) 成員会で個人的な知覚や印象を有することと述べている。

（2）　桂広介「青年心理学」金子書房　1962　(1)　地理的近接など本文の他に年令の近

接・身余的条件の近似・容貌・音声などへの要求の合致・同性たること，または異性たること。社会的，経済的背景の近似をあげている。

（3） 横山一郎「高校生における学友関係の実証的研究」その 3，1961 第3回高等学校研究大会報告資料

（4） 桂広介「青年心理学」より

7. おわりに

6カ年の友人関係を調べたが，統一性のあったのはC・E・R と Sociogram だけであった。このため内容に立入って実証的小集団の観察など人間関係の重要な観点を探るにいたらなかった。結果と考察それに不備な点をついた一生徒の作文を今後の研究の基にしたいと思う。中学1年のほとんどは小学校を別にして入学してきた。生徒達は始めのRが示すように二者関係の基本型が多く形成された。この形成に役立てたものに野辺山の合宿があることをみのがせない。そこで互いにある程度の親近感を受け，クラブ活動に，海や山の校外指導とクラス以外の所で触れた個々の生徒は早くもクラブ活動の場で三者関係が生じていた。

2年になる時の学級編成は Sociogram をもとにしてほぼ半数の分離を意図的に行ったが，結果はより高いR関係を示しこの傾向は3年まで続いた。拡張指数は2年において最高を示しその後ゆるやかな線で減少していった。高校生活に入ると彼等には生活の切り換えのごとくこの1年に形成されたRは三年間，他の例よりも高い結合を示した。また生徒の通学区城も広範囲から来るから，友だちになった理由の1つ地理的近似も大部分は通学方向と同級であると推察する。しかも中学2年から高校2年まで地理的近似は上位に位置している。このことは興味・能力に高校2年で追い越されはしたものの彼等にとっては理由の主要な一因であった。作文 3）の内容と数値においては表10の考察からも，本校のこの対象学年においては精神的結びつきより割り切った考え方・観方をするのが多いといえる。性格に関しては一つの調査ではわからぬがE類型のある生徒は中学3年のSociogramと性格の関係を示した図5においてはR関係があったが，この後は孤独性に入っていったのである。この点も今後の問題として持ち越されるものの一つである。特性に関しては考察のところで述べた如く，もし社交性が少いということがあるとしたら，この原因を探ることは必要なことである。しかし大部分の項目において一般と特別に違うところはなかった。クラブ活動の低調さは高校についていえる。その見方として，一組の増加があったが，このクラスには1人だけ中学から上ったクラスのうちに友だちの選択をしているだけで，そのクラスの大部分は高校2年の調査の機，「ほとんどつき合ったことがない人がいますか」の項目に中学からの2クラスと接触が少い。またはないと記してある。このことはクラブで同じように活動していて，接触はあっても友だちとして選ばなかったのが大部分であることを反省しなくてはならないだろう。最後に1人の生徒の作文を通じて彼等の友だちについての考えと，調査の不備の反省としたい。

「友達の間に差別をつけること，それは無二の親友（その人のためにはなんでもしてあげられる）のない僕にとって非常に苦痛であります。そして自分の友人と思っている人を書ない事は僕にとってその人えの友達だという精神的つながりを否定することでして僕にはそのようなことはできません。第三者にとって他人の交友関係など，特に深い感じをおこさない。むしろ興味に近いものかもしれない。しかし本人にとっては心の底にあくまで

ひめておきたいものなのであります。とにかく（あの人は自分を友人と思っているのだろうか，それともなんとも思ってないのか）と考えながら書くことはできません，いわんや今検査を受けてる人たちも，皆片思いがこわいばっかりに適当に（おまえは友達だったなあ）とかなんとか妥協して書いております。こんな調査は意味がないのではないかと思います。どうしても受けなければならないというのでしたら再調査も受けましょう。しかしその時は3人というように限定しないで全部書きたいと思います。そうすればどれか一人ぐらいは片思いでなくすみそうな人もいるでしょうから」。（原文）

付表1.　質問紙（第6回）

代表2.　交友関係図標

付 表 1　　東京教育大学付属駒場高等学校三年　　組　　番　なまえ

ソシオ・メトリック調査

この調査は交友関係を知るためのものです。後輩の級編成にも役立つものです。秘密は厳守されますから，ありのまま記入して下さい。

1—1　最も仲のよい友だちを書いて下さい。

1　　君——→(　　)年間
2　　君——→(　　)年間
3　　君——→(　　)年間

1—2　上の友だちと何年間のつき合いか，上の(　)の中に年数を入れて下さい。

4　1—1 の友だち（個人でもグループでもよい）と20年後にはどうなっているか想像的作文を書いて下さい。

1　A項目のようなことを話し合ったことがありますか，あったら番号で，その友だちの(　)内に入れて下さい。

——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)
——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)
——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)

A項目（一読したあと多く話し合っている順に記して下さい）

1　家の中のこと　　2　勉強や成績のこと
3　進学や就職のこと　　4　先生や友だちのこと
5　映画や雑誌などのこと　　6　主義・思想のこと
7　異性のこと　　8　将来のこと

その他がありましたら下の(　)に内容を書いて，番号を入れて下さい。

9(　　)　　10(　　)
11(　　)　　12(　　)

3—1　B項目でその友だちの特性と思われるものがありましたら(　)内に記号で入れて下さい。一人の友だちについて記したあとに次の友だちに移って下さい。

——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)
——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)
——→ (　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)

B

ア	明朗	イ	理解力	ウ	正直	エ	親切	オ	社会的
カ	幸福感	キ	成功的	ク	判断力	ケ	情緒安定感	コ	自立的
サ	容姿	シ	努力的	ス	責任感	セ	指導的	ソ	協調的
タ	創造的	チ	寛容的	ツ	同情心	テ	信頼感	ト	知的

3—2　その他，B項目以外のものがあったら下の(　)内に記しい下さい。

1 君について
2 君について
3 君について

3—3　B項目であなた自身にあてはまると思われるものを下の(　)内に入れて下さい。

(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)

3—4　嫌いな同年の生徒は何人いますか。下の(　)内に数を入れて下さい

(　　)人

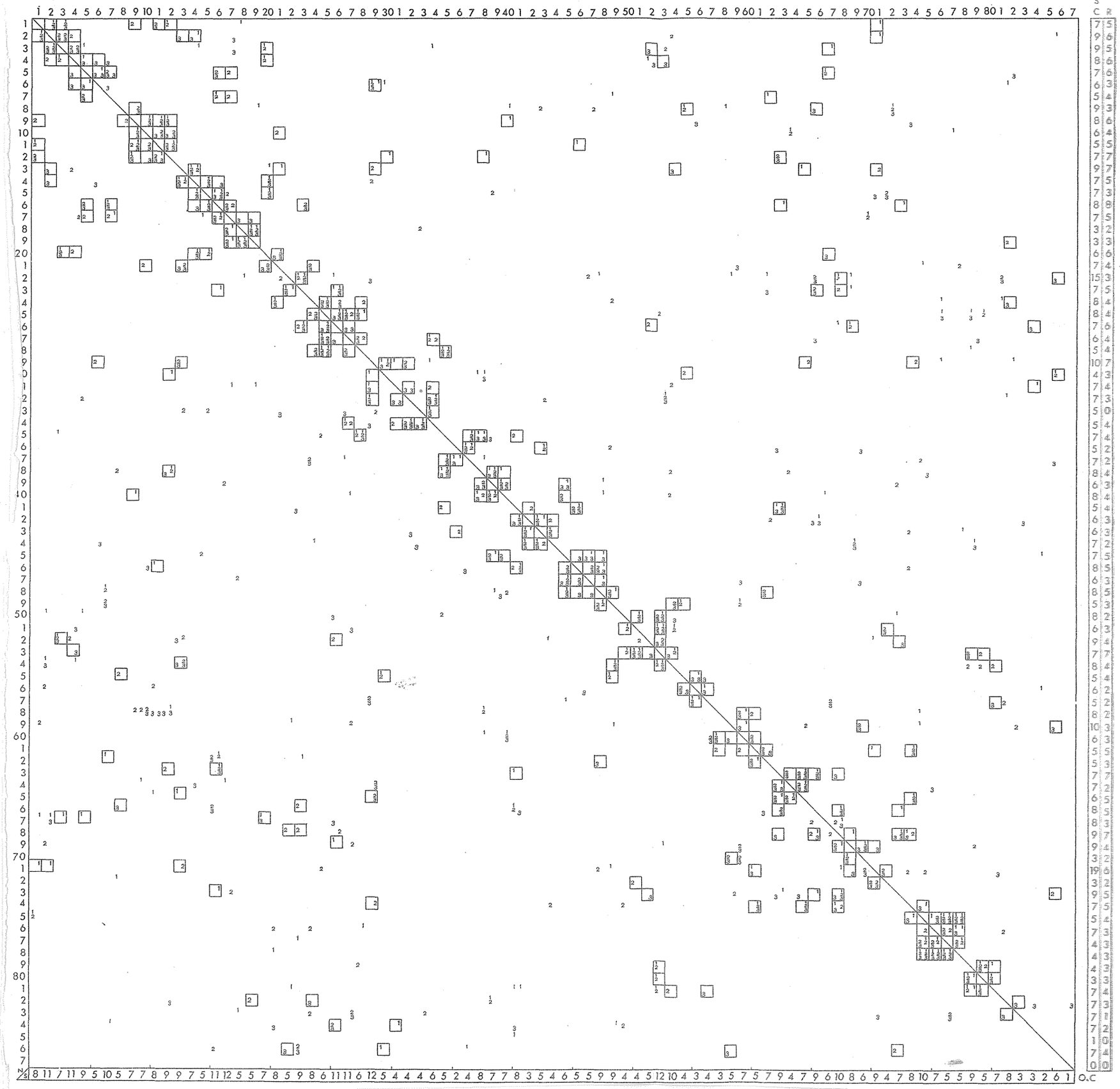
3—5　3—4 の人（たち）はB項の中で何が欠けていると思いますか。下の(　)内に記号を入れて下さい。

(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)—(　)

3—6　3—5 で B 項にないもので欠けていると思われるものがあったら下の(　)内に記して下さい。

(　　)

書き足りないときはウラを使用

付表 2　6ヵ年のソシオメトリック

＊ SC 自己選択　　＊ OC 他者からの選択　　R 相互選択